

令和7年度 日向中学校生活アンケート（学校評価）

4段階評価 4：たいへん良い 3：良い 2：やや悪い 1：改善の必要がある

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会意見等評価
1	主体的・対話的な学びの推進	●「問い」や「学び合い」のある[力のつく授業]の実践と授業改善	○学び合い・振り返り・ICTの活用を手段として、自律した学習者の育成を目指す。授業で「わかった・できた」と実感している生徒を8割以上にする。	3	<p>○ 授業中に課題を与えて、その解決に向けてグループやペアで話し合いを行う取組を多く取り入れた。その結果、一人では答えを導き出すことが難しい場合も、協力して行うことができた。学び合い活動で友達に教えることによって、学んだことをより深く理解することに繋がった。今後は、生徒の興味・関心を引きつけるような「問い」のある授業を工夫していく必要がある。</p> <p>○ 今年度、ロイロノートの基本・応用編の職員研修を実施したことで、各授業でロイロノートや Teams を通して活用はできている。生徒の ICT 活用能力も向上しており、総合の発表資料や道徳での意見交換など、生徒主体の活用ができていくように感じる。しかし、保護者の評価は 70% であり、家庭での効果的な ICT 活用が必要であると考えられる。また教師の評価も 71% であることから、タブレットを用いて何ができるかを学ぶ研修等も定期的に行う必要がある。今後は家庭学習の選択肢を与える。（プリントで学習するか、タブレットで学習するか）タブレットを用いて習熟度に応じた課題を与える。教員の活用能力を上げるための研修を行う。ことを実践していく。</p> <p>⇒授業のユニバーサルデザイン化の達成率は78%程度だったため、今後も意識して取り組んでいく。また、活動の見通し（手順の提示など）を持たせながら取り組ませる。さらに、生徒の頑張り認め、肯定的な表現で話しかけることを実践していく</p> <p>○ アンケートでは80%の生徒が肯定的な解答をしている。体験的な活動や委員会活動を通して「働くことや職業に対する関心は高まっている」と考える。しかし保護者・職員の評価がそれぞれ53%、43%と低く、「家庭学習」という活動には結びついていないと考えられる。</p> <p>⇒体験学習後に、自分自身の進路設計やその実現に必要な学習の必要性を考え、学ぶ意欲につなげられる取組をさらに充実させる必要がある。家庭との連携や小中連携を深め、家庭学習の習慣化を図りたい。</p>	○全体的に生徒は80%を超える評価をしていることから、学校での授業等に生徒達は満足しており、取組は効果的だった。
		●ICTを活用した「主体的で効率的な授業」の実践		3		
		●ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる・できる授業」の実践		2		
		●キャリア教育や計画的な学級活動、生徒会活動（委員会活動）の実践による家庭学習の充実	2	○SDG'sの観点から地域や世界の課題把握と探究的な学習を展開し、自分自身に何ができるかを考えさせ、将来の夢や目標を思い描く生徒を9割以上にする。		
			○委員会活動を通して、家庭学習の充実に取り組み、家庭学習について肯定的な回答の割合を生徒・保護者とも8割以上にする。	3		●ICTについて、効果的な利用ができるのは当然だが、家庭学習では環境づくりや保護者の理解、協力をもっと重要視してほしい。
						●唯一80%以下評価である「誰もが学びやすく集中して学ぶことができる環境」に関して、授業に集中できる環境が整っていないとのことで、すぐに改善していかないといけないと思うので、より詳しく追求していくべき。
						●三者共に評価の低かった「学習環境」については、早急な改善が求められる。
						●学力は結果が伴って初めて「身についた」と言える。ただグループ学習をすれば良いものではない。基礎学力あってこそそのアクティブラーニングなので、従来の一斉授業や教え込みで身につけさせることも大切なのでは？
						△ICTを理解・活用することは必須と思うが、AIの乱用など戒めることも大きな課題。学校だけではなく親の意識も大切だと思うので、とても難しい。

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会意見等評価
2	協働的な人間関係の構築	●生徒自らが課題解決を図る主体的な生徒会活動の推進	○生徒自ら課題に気づき、解決に向け行動するよう支援するとともに、生徒会活動をさらに活性化させ、生徒の主体的活動に関する肯定的回答を9割以上にする。	3	○生徒会活動への執行部の意識は高いが、委員会活動などの取組は不十分な面もある。全生徒が委員会活動に意欲的に取り組めるよう引き続き全職員で活性化に取り組んでいく。「日常的なトラブルに対してまずは自分で解決しようする」と回答した生徒は87%、教職員は52%と差があった。 ○行事等をとおして自他を肯定する雰囲気醸成されている。生徒会による掲示物の工夫や、学期ごとの人権学習を継続して行っている。また、WAD(人権啓発推進委員)による啓発活動(人権に関する標語づくりやバッジづくり)を年間通して行った。「いじめや差別を許さない」と回答した生徒は96%であったのに対し、教職員は62%であった。 ○校内の「ハートフル相談室」があることで、登校日数が格段に増えた生徒がいる。また、ひまわりラウンジを活用して生徒の居場所づくり・学力の保障を行っている。学校行事や生徒会活動、毎学期の教育相談を行うなど普段の学校生活から絆づくりに取り組んでいる。 ○全職員で道徳の授業を行っている。「道徳の授業に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は95%であったのに対し、保護者は77%、教職員は62%と開きがあった。 ※全職員と生徒の回答に大きな差がある項目に関しては、判断基準のズレがあると思われる。このギャップを埋めるために、年度末に向けて評価基準の共有化や可視化を進めていく。	○学校としての取組は評価できる。 ○不登校の生徒に対しての「ハートフル相談室」は、居場所や絆づくりにとても効果的だと思うので、今後も積極的に取り組んで対応してほしい。 ●いじめに関しては、かなり楽観的な印象。SNSなどを見ていると、実名や写真・動画等が拡散されており、真偽もわからず大変、怖い状況。教科の学習ができなくても、道徳の授業だけはクラス全員が真剣に受けてほしいし、教師も覚悟をもって臨んでもらいたい。 ●生徒がSOSを出しやすい学校づくりと、他者について考える道徳の授業の定着は、とても大事と考えるが、ここでも職員と生徒のアンケート結果の差がとても気になる。 ●「いじめや差別は許さない」の項目については、いずれも回答が90%を超えていてほしかった。 ●教師の理想とするものが高のか、生徒・保護者の評価が甘いか、差がありすぎるので、すり合わせていかなければならない。 △家庭で教育してほしいことを思い切って保護者へ問題提起してみても、座談会・保護者会等で話し合ってみてはどうだろうかと思う。保護者も知りたいと思う。
		●差別やいじめを「しない」「させない」「許さない」人権教育の推進	○行事や体験活動、生徒会活動を通して、互いの良さに気づかせると同時に、定期的に人権教育の授業を行っていく。みんなと何かすることが楽しいと感じる生徒を9割以上にする。	3		
		●生徒が安心して登校できる魅力ある学校づくり(居場所づくり、絆づくり)の推進	○関係機関との連携等を通して、全生徒・保護者の居場所づくり、絆づくりを継続し、いじめや差別を許さない立場で行動できる生徒を100%にする。	3		
		●組織的に取り組む「主体的に考え、議論する道徳」の授業実践	○全職員で実践する道徳の授業を推進し、一人一人の変容を多くの目で捉え評価し、道徳的な力を身につけようとする生徒を9割以上にする。	3		

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会意見等評価
3	健康的な心身の育成	<p>●「食事」や「睡眠」など規則正しい生活と環境教育の充実</p>	<p>○生活リズムを整えて、自分の健康を維持する姿勢を養う。換気・手洗いなど状況に応じて、感染予防の基本ルールを守らせる。</p>	3	<p>○ 規則正しい生活が出来ていると回答した生徒は86%で、多くの生徒が校内で元気に過ごせていた。換気や手洗いは、よくできていたように思う。感染予防で、マスクをする生徒も多かった。一部の体調不良の生徒が遅くまで起きていたり朝食抜きで登校したりしていたので、個別での指導は必要である。</p> <p>保健室利用者の中には、遅くまで起きてスマホ等メディア機器に接していた生徒が多い。夜遅くまでメディア機器使用した場合の弊害など個別に話をした。また日向市学校保健会講演会の動画視聴（メディア関連）の案内を保護者に行い、家庭への啓発を行った。</p> <p>○ 職員の入れ替わりで「日向メディア法」が周知徹底されておらず生徒全体への働きかけが不十分だった。3年前に生徒会主体で作成されたものなので、現生徒会と共に内容の改訂や周知方法を検討し、活用させていく。</p> <p>○ 避難訓練（地震）は様々な場面を想定して何度も訓練を行い、緊急時の動きを生徒と教師側共に確認を行っていった。しかし、数名緊張感なく参加している生徒もいたため、危機意識を持たせることが大切である。</p> <p>交通ルールやマナーは98%の生徒が出来ていると回答しているが、接触事故や交通ルールが守れていない事例が出ている。その都度生徒指導主事が放送等で指導を行っている。</p> <p>○ 運動、食事に関して肯定的な回答をしている生徒が89%だった。給食をおかわりする生徒も多いので、好き嫌いせずに食事をとることは出来ている。あらゆる学習場面で「自他の生命を大切にする」指導を各職員が行っていた。一部であるが心ない言動を見聞きした場合は、その都度迅速に対応していた。</p>	<p>●2の生徒指導面と同じく生徒と教職員の差が大きいので、目標とするところを統一していかなければいけないと思う。そのためには、保護者の協力は不可欠で、学校でも折に触れて働きかけてほしい。</p> <p>●本来、登校前、下校後については保護者が責任をもつことであり、何でもかんでも学校任せというのは間違っている。そろそろ学校も毅然とした態度をとる時期。</p> <p>△メディアコントロールだけではなく、ネットリテラシーを学んで、情報を間違えて受け取ったり、トラブルに巻き込まれたりしないようにしてほしい。</p> <p>△2, 3の項目については、よく話して改善していくか、目標を下げて統一していくのがいいと思う。特にインターネット等のルールについては、脳に与える影響について集会で資料を配るなどして、注意喚起しないと響かないと思う。</p>
		<p>●「日向メディア法」を活用したメディアコントロール力の育成</p>	<p>○校区内の小学校と連携したメディアコントロール習慣を実施する。インターネットやスマホを使う場合のルールを決めている生徒を8割以上にする。</p>	2		
		<p>●自他の命を守るために、自分で判断して行動できる力を育む防災教育や安全教育の推進</p>	<p>○学校以外で地震や津波が起こった場合の避難場所を家族で話し合わせ、生活の記録に全員記載させる。登下校時の交通ルールやマナーを守る生徒を9割以上にする。</p>	3		
		<p>●生と性を大切にし、体力向上を図る保健・食育指導の充実</p>	<p>○適度な運動、バランスのとれた食事が実践できる生徒の割合を9割以上にする。自他の生命を大切にするとともに、性に関する科学的な知識を正しく指導し、学校外での自律した生活を送ることができる生徒を育成する。</p>	3		

番号	重点目標	ビジョン実現のための重点目標と目標達成のための手段	数値目標	自己評価	評価の説明と今後の対策	学校運営協議会意見等評価
4	家庭・地域との連携・協働	<p>●地域の魅力を感じ、地域への貢献意欲を育む日向中学校区コミュニティづくり</p>	<p>○学校運営協議会において、生徒との意見交換の場を設け、ともに課題を共有し、解決できるように進める。</p>	4	<p>○5, 9, 12, 2月に年間4回の学校運営協議会を計画的に開催している。学校経営方針を元にした運営の中でも、特に生徒の生の声で現状と課題について報告する場を設け、地域の中の学校としての解決策について協議することができた。 ⇒今後は、どのような場面で地域と学校が協働してよりよい町づくりをしていくか、具体的に案を出していく場を設けたい。</p>	<p>○生徒会活動の様子を生徒さんの生の声で報告を聞く機会があり、その様子についても感心させられ、頼もしく感じています。</p>
		<p>●富高小・塩見小との連携・協働による小中一貫教育の推進</p>	<p>○小学校との連携を重視し、年4回の合同研修会を充実させる。また、小学生と中学生の交流の場を設け、中1ギャップの解消につなげる。</p>	3	<p>○校区内2校の小学校との合同研修会で、5つの班に分かれて研修を行っている。R8の授業力向上プロジェクト公開授業に向けた準備を始めたところである。11月の入学説明会の際、中学1年生と小学6年生との交流で「牧水かるた大会」を行った。 ⇒今後は、日向中学校区小中一貫教育ランドデザインをより具現化し、9年間の教育の系統性ととも、各学校での課題を明確にした研修を進める必要がある。</p>	<p>○小中連携することはとても重要だと思う。低学年には絵本の読み聞かせを行うなどして交流するのも良いと思う。</p>
		<p>●関係機関との連携によるキャリア教育や地域との協働による教育活動の充実</p>	<p>○総合的な学習の時間の学習計画に沿って、キャリア教育やふるさと学習等に取り組む。 ○生徒指導面ではSCやSSW、市こども課、児童相談所等との連携を密にし、ケース会等を随時設け、よりよい問題解決につなげる。</p>	3	<p>○各学年ともに計画的に総合的な学習の時間を進めている。ひょっとこ踊り講習(1年)、職場体験学習(2年)、ふるさと再発見(3年)など、地域人材や素材を改めて知ること、地域人の一人として生活しているという認識を高める一助としている。 ⇒学んだことをどのように地域に還元していくか検討し、地域とともに成長していく意識をもたせたい。</p>	<p>●学校と地域において問題の共有を図り、協働活動でも生徒にも主体的に動いてほしい。 ●「コミュニティスクール」の理解が十分でない(職員の評価が48%と低い原因は?)。</p>
		<p>●家庭・地域への情報発信の充実と開かれた学校づくりの推進</p>	<p>○行事や各教科の時間の様子を公開し、保護者の参観を促す。学級通信、生徒指導通信、保健だより等を定期的に発行し、HPを積極的に活用しながら学校の良さを発信する。</p>	4	<p>○各学級の学級通信および学校ホームページの発信は定期的に行っている。出来事だけではなく、学校や担任(学年主任)としての思いが伝わるよう、メッセージ性のある内容を工夫するようにしている。 ⇒学級、学年、学校それぞれの立場で、生徒のみではなく、保護者も地域の方々も読みたくなるような内容になるよう工夫していく。また、興味をもって学校にも足を運んでもらえるようにする。</p>	<p>△校区内連携は、学校としては可能な部分が多いが、地域間(区長間)の連携はかなり難しい。区長・民生委員とのつながりを、しっかりと作っておくと良い。 △学校の発信力を生かして、地域の行事や郷土の歴史、文化を紹介できないだろうか。 △地域の魅力を発見することが生徒の学びや体験につながり、将来、地域の担い手になると思われる。</p>